

兵庫県公報

平成22年10月7日 木曜日 号 外

発行人
兵庫県
神戸市中央区下山手通
5丁目10番1号

毎週火曜日及び金曜日発行、
その日が休日のときはその翌日



(兵庫県民の旗＝県旗)

目次

| 条 例 | ページ |
|---|-----|
| ○ 兵庫県税条例の一部を改正する条例（税務課） | 5 |
| ○ 県民緑税条例の一部を改正する条例（同） | 5 |
| ○ 暴力団排除条例（警察本部暴力団対策課） | 5 |
| ○ 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例及び青少年愛護条例の一部を改正する条例（警察本部生活環境課） | 9 |

公布された法令のあらまし

●兵庫県税条例の一部を改正する条例（条例第33号）

兵庫経済の持続的成長と豊かな県民生活を目指して新たに策定する経済・雇用プログラムに基づき、県内各地域の持続的成長をけん引する基幹産業の強化を図るとともに、地域企業の国際展開及び経営力の強化、県内各地の域内経済循環を促進する産業構造の構築、地域の人材力の強化及び働く機会の確保等の施策を展開するため、法人事業税の超過課税の実施期間を5年間延長することとした。

●県民緑税条例の一部を改正する条例（条例第34号）

平成21年台風第9号災害等における土石流による谷筋の立木等の流出等の新たな課題に対応しつつ、災害に強い森づくりや都市緑化をさらに進めるため、県民緑税の実施期間を5年間延長することとした。

●暴力団排除条例（条例第35号）

暴力団の排除に関し、県及び県民の責務を明らかにするとともに、暴力団事務所等に関する規制その他の必要な措置を定めることにより、暴力団による不当な影響を排除し、もって安全で安心な県民生活の確保に資するため、暴力団排除条例を制定することとした。

1 目的

この条例の目的を定める。

2 定義

暴力団、指定暴力団、暴力団員、暴力団事務所、準暴力団事務所及び暴力団事務所等の用語について、定義を定める。

3 暴力団の排除

- (1) 暴力団は、県民生活の平穏を害し、青少年の健全な育成を阻害する等の安全で安心な県民生活に不当な影響を与える存在であることから、県民生活から排除されなければならないものとする。
- (2) (1)の暴力団の排除は、暴力団を恐れないこと、暴力団に対して利益の供与をしないこと及び暴力団を利用しないこと並びに暴力団事務所等の存在を許さず、暴力団の活動を防止することを基本として、県、県民及び暴力団の排除のための活動を行う機関又は団体（以下「関係機関」という。）が相互に連携し、及び協力して、社会全体として推進されなければならないものとする。

4 県の責務

- (1) 県は、この条例の趣旨にのっとり、暴力団の排除に関する施策を策定し、及び実施するものとする。
- (2) 県は、県民及び関係機関が暴力団の排除のための活動を行うときは、情報の提供、助言、指導、関係者の保護その他の必要な措置を講ずるものとする。

5 県民の責務

- (1) 県民は、この条例の趣旨にのっとり、暴力団の排除のための活動に自主的に、かつ、相互の連携を図って取り組むよう努めるとともに、県が実施する暴力団の排除に関する施策に協力しなければならないものとする。
- (2) 県民は、暴力団との一切の関係がないよう努め、いやしくも県民自らが暴力団の威力を利用することがないようにしなければならないものとする。

(3) 県民は、暴力団員から暴力的要求行為その他の不当な要求があったときは、県又は関係機関に対し、相談等するよう努めるとともに、不当な要求を拒絶するよう努めなければならないものとする。

(4) 県民は、暴力団の排除に資する情報を入手したときは、県又は関係機関に対し、当該情報を提供するよう努めなければならないものとする。

6 この条例の解釈適用

この条例は、暴力団の排除のために必要な限度で適用すべきであって、これを拡大して解釈し、又はこれを濫用し、県民の基本的人権を不当に制限するようなことがあってはならないものとする。

7 県の講ずべき措置等

(1) 県の事務又は事業における措置

県は、すべての県の事務又は事業において、暴力団を利することとならないよう、暴力団及び暴力団員並びにこれらと密接な関係を有する者を公共工事に関する契約の相手方としない等の必要な措置を講ずるものとする。

(2) 警察による保護措置

警察本部長は、暴力団の排除のための活動に取り組んだこと等により暴力団から危害を加えられるおそれがあると認められる者に対し、警察官による警戒その他の当該者の保護のために必要な措置を講ずるものとする。

(3) 訴訟の援助

県は、暴力団事務所の使用の差止めの請求、暴力団員による犯罪の被害に係る損害賠償の請求その他の暴力団又は暴力団員に対する請求に係る訴訟であって、暴力団の排除に資すると認められるものを提起し、又は提起しようとする者に対し、都道府県暴力追放運動推進センターと連携を図りながら、当該訴訟を維持するために必要な援助を行うものとする。

(4) 啓発活動

県は、県民に対し、暴力団の排除の機運を醸成するための集会を開催する等暴力団の排除の重要性について理解を深める啓発活動を行うものとする。

(5) 市町への協力

県は、市町が実施する暴力団の排除に関する施策について、情報の提供、技術的助言その他の必要な協力を行うものとする。

(6) 暴力団からの離脱を促進するための措置

県は、暴力団から離脱した者を雇用する事業者及び暴力団から離脱する意志を有する者に対し、関係機関等と連携を図りながら、暴力団からの離脱に関して必要な助言、雇用又は就労の支援その他の必要な措置を講ずるものとする。

8 暴力団事務所等に関する規制

(1) 暴力団事務所等の運営の禁止等

ア 暴力団事務所等の運営の禁止

暴力団事務所等は、次に掲げる施設の敷地の周囲200メートル以内の区域又は第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域若しくは準住居地域においては、これを運営してはならないものとする。

(イ) 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校及び高等専門学校

(ロ) 児童福祉施設

(ハ) 公民館

(ニ) 図書館

(ホ) 博物館及び博物館に相当する施設

(ヘ) スポーツ施設及びこれに類する施設で、国又は地方公共団体が設置するもの

(ニ) (イ)から(ホ)までに掲げるもののほか、青少年の利用に供される施設で公安委員会規則で定めるもの

イ 暴力団事務所等の運営に対する措置

公安委員会は、アに違反して暴力団事務所等が運営されたときは、当該暴力団事務所等を運営する者に対し、当該暴力団事務所等の運営を中止することを命ずることができるものとする。

(2) 暴力団事務所等の用に供する不動産の譲渡等に関する規制等

ア 不動産所有者等の講ずべき措置

(イ) 県内に所在する不動産（以下単に「不動産」という。）の所有者、管理者又は占有者（以下「不動産

所有者等」という。)は、当該不動産が暴力団事務所等の用に供されることとなることを知って、当該不動産の譲渡又は貸付け(以下「譲渡等」という。)に係る契約をしてはならないものとする。

- (f) 不動産の譲渡等に係る契約の締結の代理又は媒介を行う者は、当該不動産が暴力団事務所等の用に供されることとなることを知って、当該不動産の譲渡等に係る契約の締結の代理又は媒介をしてはならないものとする。
- (g) 不動産所有者等は、不動産の譲渡等に係る契約を締結するときは、当該契約において、次に掲げる事項を定めるよう努めなければならないものとする。
- a 当該契約の相手方は、当該不動産を暴力団事務所等の用に供してはならないこと。
- b 不動産所有者等は、当該契約の相手方が当該不動産を暴力団事務所等の用に供することとし、又は供したことが判明したときは、催告をすることなく、当該契約を解除し、又は当該不動産の買戻しをすることができること。
- (h) 不動産所有者等は、(g)に掲げる事項を定めた契約を締結した場合において、(g) bの事実が判明したときは、当該契約を解除し、又は当該不動産の買戻しをするよう努めなければならないものとする。

イ 建設工事請負人の講ずべき措置

- (f) 県内に所在し、又は所在することとなる建物(以下単に「建物」という。)の建設工事の完成を請け負う者(以下「建設工事請負人」という。)は、当該建物が暴力団事務所等の用に供されることとなることを知って、当該建物の建設工事の請負契約をしてはならないものとする。
- (g) 建設工事請負人は、建物の建設工事の請負契約を締結するときは、当該請負契約において、次に掲げる事項を定めるよう努めなければならないものとする。
- a 当該請負契約の相手方は、当該建物を暴力団事務所等の用に供してはならないこと。
- b 建設工事請負人は、当該請負契約の相手方が当該建物を暴力団事務所等の用に供することとし、又は供したことが判明したときは、催告をすることなく、当該請負契約を解除することができること。
- (h) 建設工事請負人は、(g)に掲げる事項を定めた請負契約を締結した場合において、(g) bの事実が判明したときは、当該請負契約を解除するよう努めなければならないものとする。

ウ 暴力団事務所等の用に供する不動産の譲渡等に係る契約等に対する措置

公安委員会は、ア(7)若しくは(イ)又はイ(7)に違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が更に反復してこれらの規定に違反する行為をするおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、更に反復してこれらの規定に違反する行為をしてはならないことを勧告することができるものとする。

9 住民等に不安を覚えさせる行為の禁止等

(1) 準暴力団事務所等における禁止行為

指定暴力団の暴力団員(以下「指定暴力団員」という。)は、指定暴力団の準暴力団事務所又はその周辺において、著しく粗野若しくは乱暴な言動を行い、又は威勢を示すことにより、付近の住民又は通行人に不安を覚えさせる行為をしてはならないものとする。

(2) 準暴力団事務所等における禁止行為に対する措置

ア 警察署長は、指定暴力団員が(1)に違反する行為をしており、付近の住民若しくは通行人の生活の平穏又は業務の遂行の平穏が害されていると認めるときは、当該指定暴力団員に対し、当該行為を中止することを命じ、又は当該行為が中止されることを確保するために必要な事項を命ずることができるものとする。

イ アの命令については、不利益処分をしようとする場合の意見陳述のための手続等を行わないものとする。

10 利益の供与の禁止等

(1) 利益の供与の禁止

ア 何人も、次に掲げる行為をしてはならないものとする。

(7) 暴力団員がその人の業務を行うことを容認することの対償として、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対し、金品その他の財産上の利益の供与(以下単に「利益の供与」という。)をすること。

(8) 暴力団員がその人の業務に関する他人との紛争の解決又は鎮圧を行うことの対償として、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対し、利益の供与をすること。

イ 何人も、アに掲げる行為のほか、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対し、暴力団の活動を助長し、

又は暴力団の運営に資することとなることを知って、利益の供与をしてはならないものとする。ただし、法令上の義務又は暴力団の活動を助長し、若しくは暴力団の運営に資することとなることを知らないでした契約に係る債務の履行としてする場合その他正当な理由がある場合は、この限りでないものとする。

ウ 暴力団員は、アに違反する利益の供与となることを知って、当該利益の供与を受け、又は当該暴力団員が指定した者に対し当該利益の供与を受けさせてはならないものとする。

エ 暴力団員は、イに違反する利益の供与となることを知って、当該利益の供与を受け、又は当該暴力団員が指定した者に対し当該利益の供与を受けさせてはならないものとする。

(2) 利益の供与に対する措置

ア 公安委員会は、(1)アに違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が更に反復して(1)アに違反する行為をするおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対して(1)アに違反する利益の供与をすることを防止するために必要な事項を勧告することができるものとする。

イ 公安委員会は、(1)ウに違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が更に反復して(1)ウに違反する行為をするおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、暴力団員又は暴力団員が指定した者が(1)ウに違反する利益の供与を受けることを防止するために必要な事項を勧告することができるものとする。

11 雑則

(1) 報告徴収、立入検査等

ア 公安委員会又は警察署長は、8(1)イ又は9(2)アによる権限を行うため必要があると認めるときは、暴力団員その他の関係者に対し報告若しくは資料の提出を求め、又は警察職員に暴力団事務所等に立ち入り、物件を検査させ若しくは暴力団員その他の関係者に質問させることができるものとする。

イ アによる立入検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者に提示しなければならないものとする。

ウ アによる立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならないものとする。

エ 公安委員会は、8(2)ウ又は10(2)による権限を行うため必要があると認めるときは、8(2)ア(ア)若しくは(イ)、8(2)イ(イ)又は10(1)ア若しくはウに違反した者その他の関係者に対し報告又は資料の提出を求めることができるものとする。

(2) 意見陳述の機会の付与

公安委員会は、8(2)ウ又は10(2)による勧告をしようとするときは、当該勧告に係る者にあらかじめその旨を通知し、その者の意見を聴取する機会を与えなければならないものとする。

(3) 公表

公安委員会は、次に掲げるいずれかに該当すると認めるときは、次に掲げる者の氏名その他公安委員会規則で定める事項を公表することができるものとする。

ア 8(2)ウ又は10(2)の勧告に従わないとき。

イ (1)エの報告又は資料の提出を求められた者が正当な理由がなく当該報告又は資料の提出を拒んだとき。

(4) 補則

この条例の施行に関して必要な事項は、公安委員会規則で定めるものとする。

12 罰則

(1) 次のいずれかに該当する者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処するものとする。

ア 8(1)イの命令に違反した者

イ 9(2)アの命令に違反した者

(2) 11(1)アに違反して報告をせず、若しくは資料を提出せず、若しくは11(1)アの報告若しくは資料の提出について虚偽の報告をし、若しくは虚偽の資料を提出し、又は11(1)アの立入検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した者は、20万円以下の罰金に処するものとする。

●風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例及び青少年愛護条例の一部を改正する条例（条例第36号）

1 青少年愛護条例に基づき規制を行っている出会い喫茶等営業については、風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行令の一部改正により、新たに風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律(以

下「法」という。)第2条第6項第6号の店舗型性風俗特殊営業として定められ、法に基づく規制が行われることに伴い、次のとおり関係条例について所要の整備を行うこととした。

- (1) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例の一部改正
出会い喫茶等営業の禁止地域及び広告又は宣伝の制限地域を県内全域とすることとした。
- (2) 青少年愛護条例の一部改正
出会い喫茶等営業に関する規定を削除する等規定の整備を行うこととした。

2 法第2条第6項第3号の店舗型性風俗特殊営業(以下「ストリップ劇場等営業」という。)を営むことが禁止されていない有馬地区、城崎地区及び湯村地区の3地区について、これらの地区を訪れる女性及び子ども連れの観光客が増加している状況にかんがみ、ストリップ劇場等営業の禁止地域及び広告又は宣伝の制限地域を県内全域とすることとした。

条 例

兵庫県税条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成22年10月7日

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県条例第33号

兵庫県税条例の一部を改正する条例

兵庫県税条例(昭和35年兵庫県条例第63号)の一部を次のように改正する。

附則第38条中「平成23年3月11日」を「平成28年3月11日」に改める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。



県民緑税条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成22年10月7日

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県条例第34号

県民緑税条例の一部を改正する条例

県民緑税条例(平成17年兵庫県条例第19号)の一部を次のように改正する。

第2条中「平成22年度」を「平成27年度」に改める。

第3条の見出し中「法人等」を「法人」に改め、同条第1項中「平成23年3月31日」を「平成28年3月31日」に、「第52条第2項第3号若しくは第4号」を「第52条第2項第4号」に、「法人等」を「法人」に改める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。



暴力団排除条例をここに公布する。

平成22年10月7日

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県条例第35号

暴力団排除条例

目次

第1章 総則(第1条-第6条)

第2章 県の講ずべき措置等(第7条-第12条)

第3章 暴力団事務所等に関する規制

第1節 暴力団事務所等の運営の禁止等(第13条・第14条)

第2節 暴力団事務所等の用に供する不動産の譲渡等に関する規制等(第15条-第17条)

第4章 住民等に不安を覚えさせる行為の禁止等（第18条・第19条）

第5章 利益の供与の禁止等（第20条―第23条）

第6章 雑則（第24条―第28条）

第7章 罰則（第29条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 この条例は、暴力団の排除に関し、県及び県民の責務を明らかにするとともに、暴力団事務所等に関する規制その他の必要な措置を定めることにより、暴力団による不当な影響を排除し、もって安全で安心な県民生活の確保に資することを目的とする。

（定義）

第2条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 暴力団 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律（平成3年法律第77号。以下「法」という。）第2条第2号に規定する暴力団をいう。
- (2) 指定暴力団 法第2条第3号に規定する指定暴力団をいう。
- (3) 暴力団員 法第2条第6号に規定する暴力団員をいう。
- (4) 暴力団事務所 法第15条第1項に規定する事務所をいう。
- (5) 準暴力団事務所 暴力団の幹部（法第3条第2号に規定する幹部をいう。）が当該暴力団の活動のために行う連絡又は待機の用に供されている施設又は施設の区画された部分その他の暴力団事務所に準ずるものをいう。
- (6) 暴力団事務所等 暴力団事務所及び準暴力団事務所をいう。

（暴力団の排除）

第3条 暴力団は、県民生活の平穏を害し、青少年の健全な育成を阻害する等の安全で安心な県民生活に不当な影響を与える存在であることから、県民生活から排除されなければならない。

2 前項の暴力団の排除は、暴力団を恐れないこと、暴力団に対して利益の供与をしないこと及び暴力団を利用しないこと並びに暴力団事務所等の存在を許さず、暴力団の活動を防止することを基本として、県、県民及び暴力団の排除のための活動を行う機関又は団体（以下「関係機関」という。）が相互に連携し、及び協力して、社会全体として推進されなければならない。

（県の責務）

第4条 県は、この条例の趣旨にのっとり、暴力団の排除に関する施策を策定し、及び実施するものとする。

2 県は、県民及び関係機関が暴力団の排除のための活動を行うときは、情報の提供、助言、指導、関係者の保護その他の必要な措置を講ずるものとする。

（県民の責務）

第5条 県民は、この条例の趣旨にのっとり、暴力団の排除のための活動に自主的に、かつ、相互の連携を図って取り組むよう努めるとともに、県が実施する暴力団の排除に関する施策に協力しなければならない。

2 県民は、暴力団との一切の関係がないよう努め、いやしくも県民自らが暴力団の威力を利用することがないようにしなければならない。

3 県民は、暴力団員から暴力的要求行為（法第2条第7号に規定する暴力的要求行為をいう。）その他の不当な要求があったときは、県又は関係機関に対し、相談等するよう努めるとともに、不当な要求を拒絶するよう努めなければならない。

4 県民は、暴力団の排除に資する情報を入手したときは、県又は関係機関に対し、当該情報を提供するよう努めなければならない。

（この条例の解釈適用）

第6条 この条例は、暴力団の排除のために必要な限度で適用すべきであって、これを拡大して解釈し、又はこれを濫用し、県民の基本的人権を不当に制限するようなことがあってはならない。

第2章 県の講ずべき措置等

（県の事務又は事業における措置）

第7条 県は、すべての県の事務又は事業において、暴力団を利することとならないよう、暴力団及び暴力団員並びに公安委員会規則で定めるこれらと密接な関係を有する者を公共工事に関する契約の相手方としない等の必要な措置を講ずるものとする。

(警察による保護措置)

第8条 警察本部長は、暴力団の排除のための活動に取り組んだこと等により暴力団から危害を加えられるおそれがあると認められる者に対し、警察官による警戒その他の当該者の保護のために必要な措置を講ずるものとする。

(訴訟の援助)

第9条 県は、暴力団事務所の使用の差止めの請求、暴力団員による犯罪の被害に係る損害賠償の請求その他の暴力団又は暴力団員に対する請求に係る訴訟であって、暴力団の排除に資すると認められるものを提起し、又は提起しようとする者に対し、法第32条の2第1項に規定する都道府県暴力追放運動推進センターと連携を図りながら、当該訴訟を維持するために必要な援助を行うものとする。

(啓発活動)

第10条 県は、県民に対し、暴力団の排除の機運を醸成するための集会を開催する等暴力団の排除の重要性について理解を深める啓発活動を行うものとする。

(市町への協力)

第11条 県は、市町が実施する暴力団の排除に関する施策について、情報の提供、技術的助言その他の必要な協力を行うものとする。

(暴力団からの離脱を促進するための措置)

第12条 県は、暴力団から離脱した者を雇用する事業者及び暴力団から離脱する意志を有する者に対し、関係機関等と連携を図りながら、暴力団からの離脱に関して必要な助言、雇用又は就労の支援その他の必要な措置を講ずるものとする。

第3章 暴力団事務所等に関する規制

第1節 暴力団事務所等の運営の禁止等

(暴力団事務所等の運営の禁止)

第13条 暴力団事務所等は、次に掲げる施設の敷地の周囲200メートル以内の区域又は都市計画法(昭和43年法律第100号)第8条第1項第1号に規定する第1種低層住居専用地域、第2種低層住居専用地域、第1種中高層住居専用地域、第2種中高層住居専用地域、第1種住居地域、第2種住居地域若しくは準住居地域においては、これを運営してはならない。

- (1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第1条に規定する学校(大学を除く。)
- (2) 児童福祉法(昭和22年法律第164号)第7条第1項に規定する児童福祉施設
- (3) 社会教育法(昭和24年法律第207号)第21条に規定する公民館
- (4) 図書館法(昭和25年法律第118号)第2条第1項に規定する図書館
- (5) 博物館法(昭和26年法律第285号)第2条第1項に規定する博物館及び同法第29条に規定する博物館に相当する施設
- (6) スポーツ振興法(昭和36年法律第141号)第12条に規定するスポーツ施設及びこれに類する施設で、国又は地方公共団体が設置するもの
- (7) 前各号に掲げるもののほか、青少年の利用に供される施設で公安委員会規則で定めるもの

(暴力団事務所等の運営に対する措置)

第14条 公安委員会は、前条の規定に違反して暴力団事務所等が運営されたときは、当該暴力団事務所等を運営する者に対し、当該暴力団事務所等の運営を中止することを命ずることができる。

第2節 暴力団事務所等の用に供する不動産の譲渡等に関する規制等

(不動産所有者等の講ずべき措置)

第15条 県内に所在する不動産(以下単に「不動産」という。)の所有者、管理者又は占有者(以下「不動産所有者等」という。)は、当該不動産が暴力団事務所等の用に供されることとなることを知って、当該不動産の譲渡又は貸付け(以下「譲渡等」という。)に係る契約をしてはならない。

- 2 不動産の譲渡等に係る契約の締結の代理又は媒介を行う者は、当該不動産が暴力団事務所等の用に供されることとなることを知って、当該不動産の譲渡等に係る契約の締結の代理又は媒介をしてはならない。
- 3 不動産所有者等は、不動産の譲渡等に係る契約を締結するときは、当該契約において、次に掲げる事項を定めるよう努めなければならない。
 - (1) 当該契約の相手方は、当該不動産を暴力団事務所等の用に供してはならないこと。
 - (2) 不動産所有者等は、当該契約の相手方が当該不動産を暴力団事務所等の用に供することとし、又は供したことが判明したときは、催告をすることなく、当該契約を解除し、又は当該不動産の買戻しをすること

ができること。

- 4 不動産所有者等は、前項に掲げる事項を定めた契約を締結した場合において、同項第2号に規定する事実が判明したときは、当該契約を解除し、又は当該不動産の買戻しをするよう努めなければならない。

(建設工事請負人の講ずべき措置)

第16条 県内に所在し、又は所在することとなる建物（以下単に「建物」という。）の建設工事（建設業法（昭和24年法律第100号）第2条第1項に規定する建設工事をいう。）の完成を請け負う者（以下「建設工事請負人」という。）は、当該建物が暴力団事務所等の用に供されることとなることを知って、当該建物の建設工事の請負契約をしてはならない。

- 2 建設工事請負人は、建物の建設工事の請負契約を締結するときは、当該請負契約において、次に掲げる事項を定めるよう努めなければならない。

(1) 当該請負契約の相手方は、当該建物を暴力団事務所等の用に供してはならないこと。

(2) 建設工事請負人は、当該請負契約の相手方が当該建物を暴力団事務所等の用に供することとし、又は供したことが判明したときは、催告をすることなく、当該請負契約を解除することができること。

- 3 建設工事請負人は、前項に掲げる事項を定めた請負契約を締結した場合において、同項第2号に規定する事実が判明したときは、当該請負契約を解除するよう努めなければならない。

(暴力団事務所等の用に供する不動産の譲渡等に係る契約等に対する措置)

第17条 公安委員会は、第15条第1項若しくは第2項又は前条第1項の規定に違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が更に反復してこれらの規定に違反する行為をするおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、更に反復してこれらの規定に違反する行為をしてはならないことを勧告することができる。

第4章 住民等に不安を覚えさせる行為の禁止等

(準暴力団事務所等における禁止行為)

第18条 指定暴力団の暴力団員（以下「指定暴力団員」という。）は、指定暴力団の準暴力団事務所又はその周辺において、著しく粗野若しくは乱暴な言動を行い、又は威勢を示すことにより、付近の住民又は通行人に不安を覚えさせる行為をしてはならない。

(準暴力団事務所等における禁止行為に対する措置)

第19条 警察署長は、指定暴力団員が前条の規定に違反する行為をしており、付近の住民若しくは通行人の生活の平穏又は業務の遂行の平穏が害されていると認めるときは、当該指定暴力団員に対し、当該行為を中止することを命じ、又は当該行為が中止されることを確保するために必要な事項を命ずることができる。

- 2 前項の規定による命令については、行政手続条例（平成7年兵庫県条例第22号）第3章の規定は、適用しない。

第5章 利益の供与の禁止等

(利益の供与の禁止)

第20条 何人も、次に掲げる行為をしてはならない。

(1) 暴力団員がその人の業務を行うことを容認することの対償として、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対し、金品その他の財産上の利益の供与（以下単に「利益の供与」という。）をすること。

(2) 暴力団員がその人の業務に関する他人との紛争の解決又は鎮圧を行うことの対償として、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対し、利益の供与をすること。

- 2 何人も、前項に掲げる行為のほか、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対し、暴力団の活動を助長し、又は暴力団の運営に資することとなることを知って、利益の供与をしてはならない。ただし、法令上の義務又は暴力団の活動を助長し、若しくは暴力団の運営に資することとなることを知らないでした契約に係る債務の履行としてする場合その他正当な理由がある場合は、この限りでない。

第21条 暴力団員は、前条第1項の規定に違反する利益の供与となることを知って、当該利益の供与を受け、又は当該暴力団員が指定した者に対し当該利益の供与を受けさせてはならない。

- 2 暴力団員は、前条第2項の規定に違反する利益の供与となることを知って、当該利益の供与を受け、又は当該暴力団員が指定した者に対し当該利益の供与を受けさせてはならない。

(利益の供与に対する措置)

第22条 公安委員会は、第20条第1項の規定に違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が更に反復して同項の規定に違反する行為をするおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、暴力団員又は暴力団員が指定した者に対して同項の規定に違反する利益の供与をすることを防止するために必要

な事項を勧告することができる。

第23条 公安委員会は、第21条第1項の規定に違反する行為が行われた場合において、当該行為をした者が更に反復して同項の規定に違反する行為をするおそれがあると認めるときは、当該行為をした者に対し、暴力団員又は暴力団員が指定した者が同項の規定に違反する利益の供与を受けることを防止するために必要な事項を勧告することができる。

第6章 雑則

(報告徴収、立入検査等)

第24条 公安委員会又は警察署長は、第14条又は第19条第1項の規定による権限を行うため必要があると認めるときは、暴力団員その他の関係者に対し報告若しくは資料の提出を求め、又は警察職員に暴力団事務所等に立ち入り、物件を検査させ若しくは暴力団員その他の関係者に質問させることができる。

2 前項の規定による立入検査をする職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者に提示しなければならない。

3 第1項の規定による立入検査の権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

第25条 公安委員会は、第17条、第22条又は第23条の規定による権限を行うため必要があると認めるときは、第15条第1項若しくは第2項、第16条第1項、第20条第1項又は第21条第1項の規定に違反した者その他の関係者に対し報告又は資料の提出を求めることができる。

(意見陳述の機会の付与)

第26条 公安委員会は、第17条、第22条又は第23条の規定による勧告をしようとするときは、当該勧告に係る者にあらかじめその旨を通知し、その者の意見を聴取する機会を与えなければならない。

(公表)

第27条 公安委員会は、次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、当該各号に掲げる者の氏名その他公安委員会規則で定める事項を公表することができる。

- (1) 第17条、第22条又は第23条の規定による勧告を受けた者が当該勧告に従わないとき。
- (2) 第25条の規定による報告又は資料の提出を求められた者が正当な理由がなく当該報告又は資料の提出を拒んだとき。

(補則)

第28条 この条例の施行に関して必要な事項は、公安委員会規則で定める。

第7章 罰則

第29条 次の各号のいずれかに該当する者は、1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処する。

- (1) 第14条の規定による命令に違反した者
 - (2) 第19条第1項の規定による命令に違反した者
- 2 第24条第1項の規定に違反して報告をせず、若しくは資料を提出せず、若しくは同項の報告若しくは資料の提出について虚偽の報告をし、若しくは虚偽の資料を提出し、又は同項の規定による立入検査を拒み、妨げ、若しくは忌避した者は、20万円以下の罰金に処する。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 第13条の規定は、同条の規定の施行又は適用の際現に運営されている暴力団事務所等に対しては、適用しない。



風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例及び青少年愛護条例の一部を改正する条例をここに公布する。

平成22年10月7日

兵庫県知事 井戸敏三

兵庫県条例第36号

風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例及び青少年愛護条例の一部を改正する条例

(風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例の一部改正)

第1条 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行条例（昭和39年兵庫県条例第55号）の一部を次のように改正する。

促音に用いられている「つ」を「っ」に改める。

第7条第2項第1号中「まあじゃん屋」を「まあじゃん屋」に改める。

第10条第1号中「の営業、同項第2号の営業及び」を「から第3号までの営業、」に改め、「に限る。）」の右に「及び同項第6号の営業」を加え、同条第2号を削り、同条第3号中「第1号」を「前号」に改め、同号を同条第2号とする。

第13条第1号中「の営業及び同項第2号」を「から第3号まで及び第6号」に改め、同条第2号を削り、同条第3号を同条第2号とし、同条第4号を同条第3号とする。

別表第4を削る。

（青少年愛護条例の一部改正）

第2条 青少年愛護条例（昭和38年兵庫県条例第17号）の一部を次のように改正する。

本則（第2条第8号、第17条から第19条の2まで及び第28条第1項第7号を除く。）及び附則中促音に用いられている「つ」を「っ」に改める。

目次中「第19条の2」を「第19条」に改める。

第2条第8号を削る。

第17条から第19条までを次のように改める。

第17条から第19条まで 削除

第19条の2を削る。

第25条第1項中「、第19条の2第1項若しくは第2項」を削る。

第26条第1項中「、第15条第1項又は第19条第5項」を「又は第15条第1項」に改める。

第27条中「、出会い喫茶等営業」を削る。

第28条第1項中第7号を削り、第8号を第7号とし、第9号を第8号とする。

第30条第2項中「次の各号のいずれかに該当する」を「第22条第1項（同項第1号又は第2号に係る部分に限る。）又は第2項（同条第1項第1号又は第2号に係る部分に限る。）の規定に違反した」に改め、同項各号を削り、同条第3項中「次の各号のいずれかに該当する」を「常習として第12条の5第1項又は第2項の規定に違反した」に改め、同項各号を削り、同条第5項第4号中「この条第3項第1号に掲げる」を「この条第3項に規定する」に改め、同条第6項中「第19条第1項第1号から第3号まで、」を削り、同条第7項第3号を削り、同条第8項中第2号から第5号までを削り、第6号を第2号とする。

附 則

（施行期日）

1 この条例は、平成23年1月1日から施行する。

（出会い喫茶等営業の停止命令等に関する経過措置）

2 この条例の施行前にした行為に係るこの条例の施行後における第2条の規定による改正前の青少年愛護条例第2条第8号に規定する出会い喫茶等営業の停止又は廃止の命令その他の処分については、なお従前の例による。

（罰則に関する経過措置）

3 この条例の施行前にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例による。